

新紙幣きょう発行

新しい紙幣の発行が3日から始まる。1万円札は日本の資本主義の父とされる実業家の渋沢栄一、5千円札は女性の地位向上に尽力した教育家の津田梅子、千円札は破傷風の治療法を確立した微生物学者の北里柴三郎が、それぞれ顔になる。紙幣の刷新は2004年以来約20年ぶりで、偽造防止と使いやすきの向上が狙い。

【関連記事22面に】

県内はあすから取り扱い

日銀は3日午前、本店と全国の支店から民間金融機関向けに新紙幣を引き渡す。個人や企業は、全国の金融機関窓口やATMなどを通じて手にする。全国銀行協会(全銀協)は「金融機関は発行初日に新紙幣を受け取り始めるため、3日の開店と同時に新紙幣を顧客に渡せるわけではない」としている。

県内の主な金融機関は、日銀名古屋支店から引き渡される予定で、十六銀行、大垣共立銀行、岐阜信用金庫は4日から順次、営業店で新紙幣の取り扱いを始める。

紙幣も引き続き使うことができる。すでに便乗した詐欺も発生しており、各地の警察が注意を呼びかけている。警視庁によると、高齢者が金融機関職員をかたる人物から「新紙幣交換のためお金を取りに行く」との電話の後、訪ねてきた人に現金をだまし取られる被害があった。

新紙幣は偽造防止のため、最新の技術を採用。肖像の3D画像が回転するように見えるホログラム技術の世界で初めて採用した。誰もが使いやすいユニバーサルデザインにも対応。額面の洋数字を大きくしたほか、指で触れて紙幣を識別できるマークを分かりやすくした。

新紙幣の裏面のデザインには、1万円札に東京駅の建物、5千円札に藤の花、千円札に葛飾北斎の「富嶽三十六景(神奈川沖浪裏)」をそれぞれ採用している。



実業家
資本主義の父
渋沢栄一



教育家
女性の地位向上
津田梅子



微生物学者
破傷風の治療確立
北里柴三郎



国立印刷局は今年3月末までに計45億3千万枚を製造した。発注元の日銀によると、来年3月末までに計74億8千万枚の新札を製造する計画だ。